

参加費
無料

令和五年度 ◆ 土木研究所講演会

総合力で 現場を支える

令和5年10月11日(水) 10:00-17:05
日本教育会館一ツ橋ホール
東京都千代田区一ツ橋 2-6-2

会場&ライブ配信 ◆ ハイブリッド開催



特別講演 13:00-13:45

スマートインフラマネジメントで未来を拓く ～SIP第3期の概要と土木研究所への期待～

東北大学大学院工学研究科教授/インフラ・マネジメント研究センター センター長 久田 真



講演 10:30-12:00/13:50-14:50

「RC床版の土砂化対策としての舗装の
防水性能向上への取り組み」
道路技術研究グループ グループ長 高井嘉親

「断熱による切土の面の凍上対策技術の開発」
寒地基礎技術研究グループ 上席研究員 林 宏親

「中小河川における水位情報提供システムの開発」
水災害研究グループ グループ長 森 範行

「生産性向上・安全性向上に資する
土木研究所の取組について」
技術推進本部 本部長 新一真

「橋梁診断支援AIシステムの開発と
予防保全に向けた技術開発」
橋梁構造研究グループ グループ長 石田雅博

パネルディスカッション 15:00-17:00

「総合力で現場を支える」

座長: 久保 和幸 理事
パネリスト: 宮武 裕昭 地質・地盤研究グループ グループ長
服部 敦 河道保全研究グループ グループ長
石井 靖雄 土砂管理研究グループ グループ長
新田 弘之 材料資源研究グループ グループ長

お申込み

参加ご希望の方は、下記のURLから事前申込みをお願いいたします。
<https://www.pwri.go.jp/jpn/about/pr/event/2023/1011/index.html>

・本講演会への参加は、原則、事前申込みをされた方のみとさせていただきます。
・Zoom ウェビナーによるライブ配信を実施します。詳細は、土木研究所ホームページをご確認ください。

※ご提供いただいた個人情報は、適正に管理させていただくとともに、国立研究開発法人土木研究所が主催する講演会等のご案内以外の目的には使用しません。



お問い合わせ

国立研究開発法人土木研究所
企画部研究企画課

TEL: 029-879-6751 E-mail: kikaku@pwri.go.jp
<https://www.pwri.go.jp/>

主催: 国立研究開発法人土木研究所

後援予定: 国土交通省
公益社団法人土木学会
一般社団法人建設コンサルタンツ協会
一般社団法人全国建設業協会
一般社団法人日本建設業連合会
一般財団法人土木研究センター



CPDプログラム: 本講演会は、土木学会のCPDプログラムの認定を受けています。

CPDにかかる受講証明書は、1日参加の方にのみ後日送付します。(引換券は当日、受付時に配付します。) 但し、ZOOMウェビナーのライブ配信視聴によって参加された方におかれましては、受講後のアンケート(講演後、視聴者としてログが確認できた方)のみ送付します)において、受講して得られた所見(学びや気づき)を、100字以上で記載の上ご提出いただくことが、CPDにかかる受講証明書の条件となります。



講演会概要

プログラムの詳細は、土木研究所ホームページをご確認ください。



特別講演 13:00-13:45

スマートインフラマネジメントで未来を拓く ～SIP第3期の概要と土木研究所への期待～

東北大学大学院工学研究科教授/インフラ・マネジメント研究センター センター長 久田 真

2023年からスタートした内閣府・戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)第3期では、検討課題として「スマートインフラマネジメントシステムの構築」が設定された。このプロジェクトでは、建設技術やインフラそのもののスマート化を通じて、我が国が目指す Society5.0 の未来社会の実現を目標としているが、本講演では、SIP プロジェクトの概要を紹介するとともに、土木研究所への期待を述べる。

10:00-10:05 開会挨拶 理事長 藤田 光一
10:05-10:25 趣旨説明 研究調整監 竹田 正彦

10:30-12:00 講演 [午前]

10:30-11:00

RC床版の土砂化対策としての 舗装の防水性機能向上への取り組み

道路技術研究グループ グループ長 高井 嘉親

道路橋RC床版の土砂化は、路面や舗装端部から流入した雨水などが床版上面より浸透することにより引き起こされる。そこで、土木研究所では防水性を高めたコンクリート橋面舗装について、所内の橋梁研究者との連携や民間企業の持つ技術シーズなど関係者の総合力を活かしながら、実用化に向けた開発を行ってきた。今回はその取り組みを紹介する。



11:00-11:30

断熱による切土のり面の凍上対策技術の開発

寒地基礎技術研究グループ 首席研究員 林 宏親

本講演では、切土のり面の凍上対策として新しく開発した「ワンバック断熱ふとんかご工法」について紹介する。本工法は、寒冷地における切土のり面の凍上被害の低減に加えて、現場作業の省力化および施工時の安全性向上を図るものである。



11:30-12:00

中小河川における水位情報提供システムの開発

水災害研究グループ グループ長 森 範行

現在は水位予測が実施できていない中小河川においても導入しやすい「短時間で計算可能な」、「安価で」、「簡便で」、「必要な精度を有する」リアルタイム水位予測システムをRRIモデルにより開発した。そのシステムを国内200の中小河川において適用した結果等を紹介する。



13:50-14:50 講演 [午後]

13:50-14:20

生産性向上・安全性向上に資する 土木研究所の取組について

技術推進本部 本部長 新 一真

インフラ建設現場等における生産性向上(省人化・省力化)や安全性向上(事故等の低減)を目的とした、ロボット技術などの最先端技術を活用した自動施工や遠隔操作等に関する土木研究所の取組を紹介する。



14:20-14:50

橋梁診断支援AIシステムの開発と 予防保全に向けた技術開発

橋梁構造研究グループ グループ長 石田 雅博

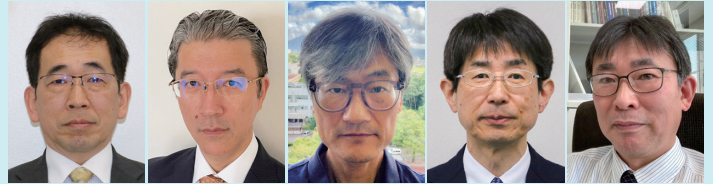
構造物メンテナンス研究センターでは、橋梁診断支援AIシステムを開発し現場実証を行っている。診断AIの開発にあたっては、損傷のメカニズム・診断の決め手となる情報・措置方針や工法例の一連の技術情報を「診断セット」として体系的な整理を行った。予防保全をさらに進めるためには、必要な情報を取得するための技術開発、劣化のメカニズムと段階に応じた補修補強技術の開発が必要である。本講演では、これまでの成果を紹介するとともに、今後他機関とも連携しながら予防保全に向けた技術開発を行う方向性を紹介する。



15:00-17:00 パネルディスカッション

総合力で現場を支える

座長：久保 和幸 理事
パネリスト：宮武 裕昭 地質・地盤研究グループ グループ長
服部 敦 河道保全研究グループ グループ長
石井 靖雄 土砂管理研究グループ グループ長
新田 弘之 材料資源研究グループ グループ長

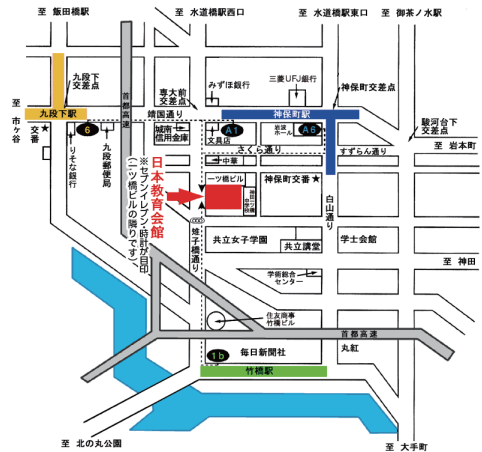


久保 和幸 宮武 裕昭 服部 敦 石井 靖雄 新田 弘之

17:00-17:05 閉会挨拶 理事・寒地土木研究所長 竹内 正信

Access

日本教育会館一ツ橋ホール 〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋2-6-2



■ 電車でのアクセス

地下鉄都営新宿線・東京メトロ半蔵門線神保町駅(A1出口)下車徒歩3分
地下鉄都営三田線神保町駅(A1出口)下車徒歩5分/東京メトロ東西線竹橋駅(北の丸公園側出口)下車徒歩5分
東京メトロ東西線九段下駅(6番出口)下車徒歩7分/JR総武線水道橋駅(西口出口)下車徒歩15分

